

修士論文（要旨）
2021年1月

日本に在住する中国系高齢者が訪問看護を利用する際に抱える課題とその対策

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科
老年学専攻
219J6004
伍棚鴻

Master's Thesis (Abstract)
January 2021

Challenges Faced by Elderly Chinese Living in Japan when Using a Home-visit Nursing
Service

Penghong Wu
219J6004
Master's Program in Gerontology
Graduate School of Gerontology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

目次

第1章 はじめに	1
第2章 対象と方法	1
第3章 結果	1
3.1 インタビュー調査事例	1
3.2 インタビュー分析	1
第4章 考察	1
4.1 日本における中国系高齢者の訪問看護の現状	1
4.2 日本における中国系高齢者に対する訪問看護問題の対策	1
4.3 本研究の限界	1
第5章 結論	2
引用文献	3

要旨

第1章 はじめに

現在、日本では、外国人の流入の増加や国際結婚などによる国際化が進みつつあり、高齢者に占める外国人や外国系日本人も増加している。外国人の中でもとくに中国人は多く、日本語を第一言語としない中国系高齢者に対する介護サービス提供の機会が増加することが予測される。中国には「養児防老」という言葉があり、老後に備え、子孫を増やすという形で、子世代による私的老親介護が長年続いてきた。中国の家族構成は伝統的な多子家族から核家族に変わったにも関わらず、親世代の観念はまだ昔のままである。筆者は中国系高齢者の訪問看護に従事するなかで、中国系の要看護高齢者が、サービスの利用にあたり様々の問題を抱えていることを実感していた。そこで本研究では、日本に在住している中国系高齢者が訪問看護を利用する際にどのような問題があるのかを明らかにすることを目的とした。

日本における外国人高齢者のケアに関する先行研究の検索にあたっては、主に、(1)日本における外国人高齢者介護・看護の現状に関する研究、(2)日本における外国系高齢者に対する介護・看護サービスの現状と課題、(3)日本における外国系高齢者に対する看護に関する研究の三つの領域に関して検討した。日本では、様々な種類の施設のほか、介護サービスも充実している。しかし、日本の外国系高齢者の現状に対する現在の福祉事業の体制は十分とは言えない。日本における外国系高齢者の訪問介護に関する研究では、在日コリアンを対象とする研究が多くさされているが、中国系高齢者については、中国からの帰国者の高齢者介護の研究がいくつかみられるものの、在日中国系高齢者を対象とする研究はほとんどなく、とくに訪問看護を利用する側の現状と課題に関する先行研究はみられなかった。そこで本研究では、訪問看護サービスを利用する中国系高齢者に対するインタビューによる事例研究をもとに、現在の日本における中国系高齢者の訪問看護の現場に現存する問題を明らかにし、それらの問題に対する対策について検討した。

第2章 対象と方法

株式会社一笑苑横浜旭が提供する訪問看護サービスを利用する中国人高齢者5名に、訪問看護を利用するきっかけ、訪問看護を利用する問題点、問題点への対策、訪問看護の利用満足度についてインタビューを実施した。利用者の自宅を訪問し、事前に承諾を得てICレコーダーを使用し、インタビュー内容の記録を行った。各々のインタビュー内容を詳細に検討し、中国系要看護高齢者が訪問看護を利用する際の問題点、および、その問題点に対し利用者がどう対応したかを抽出し、現在の制度と照らし合わせて、それらの問題に対する対策を検討した。本研究は、桜美林大学研究倫理委員会の審査を受け承認 (No. 19073) を得たうえで実施した。

第3章 結果

本章ではインタビュー調査結果から5人の調査対象者の語りを詳しく記述した。語りから、訪問看護を利用する問題点としては、①言語の壁、②身体的障害がもたらす消極的な心理、③訪問看護サービスへの不満、④訪問看護師退職後の人の交代に慣れない ということが重要な問題であることが示された。

第4章 考察

中国系高齢者が訪問看護を利用する際の問題を明らかにし、その対策について考察し提起した。【言語の壁】という問題に対して、言語翻訳および同文化人材を提供する必要がある。介護現場において、外国人向けの医療と同じように、専門的な通訳が必要となり、非介護者と同じ出身地であるなら、できるだけ、同じ出身国の人材を派遣した方がいいと考えられる。さらに、コールセンターを利用し、電話やテレビ電話による通訳や、携帯型の通訳機も活用できると考えられる。【訪問看護のサービスへの不満】という問題に対して、外国人看介護職員のケア能力を向上する必要がある。具体的には、外国人看介護職員を職場に定着させるために、現場での指導や教育を充実させる必要があると考えられる。現任訓練中は、外国人看介護職員が一人前になるまで、日本人の看介護指導員が実地指導すべきであろう。

国際厚生事業団をはじめとした団体による外国人ケア提供者に対する研修をより充実させていく必要があると考えられる。【身体的障害がもたらす消極的な心理】については、早く回復し子の支援をしようとする中国系高齢者もいたが、身体的障害があっても家族の悩み事や心配事の相談に乗るなど情緒的な支援ができることも少なくない。高齢者の家庭生活での役割付与は、生きがい感をもたせ、身体的障害による消極的な心理が生じることを防ぐ効果があると考えられる。【訪問看護師退職後の人の交代に慣れない】という問題に対しては、相対的に高い訪問看護師の離職率を下げるため、早朝勤務帯のみや短時間勤務など、柔軟で多様な働き方の推進、職場環境の安全性の確保、報酬面での待遇の改善などが考慮される。

本研究の対象は主に首都圏に在住することや、対象者が少数で中国における出身地がそれぞれ異なることから一般化には限界がある。しかし、本研究は、日本における中国系高齢者に対する訪問看護という新しい視座で、日本における中国系高齢者に対する訪問看護を取り巻く現状およびその課題を提起したことで、日本における中国系高齢者介護の質の向上に向けた基礎的資料となる意義があると考えられる。

第5章 結論

本研究では日本に在住する中国系高齢者が訪問看護を利用する際に抱える問題点についてインタビューにより明らかにし、その対策について考察した。問題点として、【言語の壁】、【体の不自由さによる消極的な気持ち】、【訪問看護のサービスへの不満】、【訪問看護師退職後の人の交代に慣れない】ということがあることを明らかにした。それぞれの問題に対して講じる対策として、【外国人看護職員のサービスの向上】、【言語翻訳および同文化人材の提供】、【訪問看護師に対する支援の整え】、【同文化コミュニティの利用と異文化介護のネットワークの形成】が重要であると考えられた。

引用文献

- 1) 大浦智子, 鷺尾昌一, 石崎達郎, 他: 特別永住者や外国系日本人における日本の高齢者介護サービスへのアクセスの現状と課題: 公衆衛生モニタリング・レポート委員会報告 日本公衆衛生雑誌, 67. 7: 435-441(2020).
- 2) 何彬: 在日老華僑・華人の老後: 横浜中華街を事例に. 人文学報, 423: 21-42(2010).
- 3) 斉龍: 高齢者を介護する家族介護者の日中比較. 21世紀東アジア社会学, 10: 75-92(2019).
- 4) 厚生労働省: 地域包括ケアシステム.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
(閲覧日 2020年10月18日).
- 5) 厚生労働省: 政策について 地域包括ケアシステム.
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-3.pdf (閲覧日 2020年10月18日).
- 6) 稲葉孝子: 高齢者医療の現状と展望—各領域のトピックス: 高齢者介護の現状と問題点. Dokkyo Journal of Medical Sciences, 44(3): 339-346(2017).
- 7) 趙文基: 在日コリアン高齢者の介護問題: 介護保険制度と介護保険事業計画の問題点と可能性. 桃山学院大学社会学論集, 46(1): 27-54(2012).
- 8) 呉珠響: 日本で生活する韓国人高齢者の文化変容と保険医療福祉サービスの利用. 日本保健科学学会誌, 16(Suppl)29(2013).
- 9) 木下寿恵: 日本の高齢者介護政策における介護概念の変遷. 名古屋経営短期大学紀要, 50: 133-149(2014).
- 10) 王栄: 異文化“介護通訳”言葉と文化のコミュニケーター: 外国人高齢者と介護の橋渡し役. Journal of cultural symbiosis research, 13: 89-96(2019).
- 11) 松本美智代, 大城凌子: 在沖高齢外国人の異文化間介護を取り巻く現状と課題—外国人(非介護者)へのインタビュー調査を通して—. 国際保健医療, 35(2): 101-111(2020).
- 12) 王栄, 渋谷努: 中国帰国者の介護問題から見た在住外国員高齢者への介護支援の現状と課題—異文化介護の現場から—. 社会科学研究, 38(2): 2-18(2018).
- 13) 菅谷綾子: 一般病床を有する病院における高齢者看護に関連した院内教育の現状と課題. 東邦大学健康科学ジャーナル, (3): 53-64(2020).
- 14) 今井芳枝, 雄西智恵美, 板東孝枝: 高齢者看護学実習における終末期がん患者を受け持った看護学生の体験. Palliative Care Research, 15(1): 1-8(2020).
- 15) 清田明美, 坂口千鶴, 千葉京子, 江見香月, 渡邊しのぶ, 泊瀬川紀子, 窪田裕子, 比留間絵美: 急性期病院における「高齢者看護コース」を修了した主任看護師の高齢者看護への認識の変化. 日本赤十字看護学会誌, 20(1): 61-69(2020).
- 16) 竹森志穂: 訪問看護師と介護職との連携について考える. 地域ケアリング, 5(10): 26-30(2003).
- 17) 大野俊: エスニックマイノリティーが支える多民族社会の高齢者ケア—カリフォルニアの施設事例が日本に示唆するもの. 九州大学アジア総合政策センター紀要, 3: 139-150(2009).
- 18) 松本美智代, 大城凌子: 在沖高齢外国人の異文化間介護を取り巻く現状と課題—外国人(非介護者)へのインタビュー調査を通して—. 国際保健医療, 35(2): 101-111(2020).
- 19) 安里和晃: 看護・介護部門における人材育成型受け入れの問題点—経済連携協定の事例から. 保健医療社会学論集, 21(2): 53-64(2010).
- 20) 伊藤鏡: 介護現場における外国人介護労働者の評価と意欲—インドネシア第一陣介護福祉士候補者受け入れ施設のアンケート調査をもとに. 厚生指標, 61(11): 27-35(2014).
- 21) 吉富志津代: 多文化共生社会と外国人コミュニティの力. 西村吉世江編, 現代人社(2008).
- 22) 田村太郎: 外国人コミュニティとの共生—これまでの経緯とこれからの期待.
<https://www.hitachi-zaidan.org/mirai/03/paper/index.html> (閲覧日 2020年10月18日)